

「長い箸の話」

天国にも地獄にも食べ物が同じ分量でたくさんあります。天国でも地獄でもみんな丸～いテーブルを囲んで座り食事を始めるのですが、その時、両者とも難儀なことに1メートル以上もある長い長い箸を使って食べなければならないのでした。天国でも地獄でもその条件は全く同じなのでした。ところがいざ食事を始めると、その箸の使い方に大きな違いがありました。

地獄にいる人は、我先にとその長～い箸を使って一生懸命食べようとするのですが箸があまりにも長すぎるために、なかなか思うように食べ物を自分の口まで運ぶことができません。そして全員が競い合うように食べ物を挟もうとするので飛び散ってしまいます。

しまいには喧嘩が始まり『これはオレのものだ!』『こっちへよこせ!』などと怒鳴りあうので余計に食べることができません。益々躍起になって自分で自分の口まで食べ物を運ぼうとするのですが、躍起になればなるほどうまくいかず、食べ物はポロポロと下に落ちるばかりでした。

ですから地獄にいる人たちはいつまでたってもお腹いっぱいになることはできず、いつも空腹の状態に苦しまなければなりませんでした。

一方、天国にいる人たちは全員がいつもお腹いっぱいの満足感を味わい、幸せを感じながら過ごしていました。天国にいる人たちは、その長～い箸で食べ物を挟むと向こう側の人の口に入れてあげるのです。その人もまたこちらに食べ物を運んできてくれる。

テーブルを囲むお互いがみんな同じように、『お先にどうぞ』『あなたからどうぞ』とお互いが相手を思いやっているのです。相手のために働かせる箸をみんなが持っているのです。決して自分のために使う箸ではなかったのです。

周りに喜ばれるように生きていると、自分にも投げかけた喜びが帰ってきます。天国ではそういうことが自然に行われているのでした。だから天国にいる人たちは、いつも笑顔を絶やすことなく、幸せいっぱいなのでした。

深い小話だと思えます。

「派遣切り」とか「リストラ」とか、深刻なニュースが毎日のように報道され、政治家や経済評論家、ニュースキャスターが解決する為には～と、難しい話をされていますが・・・きびしい今こそ、この小話のような『情けは人の為ならず』という気持ちを皆が持ち合う事が、最良の策のような気がします。

まずは、目の前の方～周りの方に対して、「天国の箸」をイメージさせて、心の豊かさだけは無くさないように過ごさなくては！！

新聞記事に500人が暮らす、日比谷公園の通称「派遣村」に正月より5日間で1700人もボランティアの方が集まれ支援活動されて、支援を受けた辛い状況に追い込まれた方々の多くが、目を潤ませながら・・・

「もう一回、前向きにチャレンジしようと思うようになった」

「世の中、捨てたものじゃない」

と言っておられるコメントを読んで、胸が熱くなりました。

P.S.

25年～今の仕事をしてて思うのは、健康においても、病気・苦情改善されて元気になれる方の特徴は、自分自身が厳しく辛い状況にあっても家族や回りの人の心配や世話をしようとする方です！！

心の豊かさは、心の健康の証拠であり、心の健康は身体の健康も取り戻していくんだと思えます。

私も何事も微力だけど、決して無力ではないという信念で、社会と向き合わなくては～と真剣に考える今日この頃です。

